

## 看護学科

## 講義要綱

科目	地域・在宅看護の方法 I	単位数	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義・演習	時間数	20(30)	必修区分	必修
担当者	家族支援専門看護師 加藤智子(10)、佐野可代子(2) 看護師 亀山美穂(8)				
授業目的	地域・在宅看護の対象である療養者と家族の役割や関係性を理解する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域・在宅看護の対象について理解する</li> <li>2 本人と家族の役割について理解する</li> <li>3 本人と家族の役割・関係・影響・変化について理解する</li> <li>4 医療・看護を必要としている療養者が家族に与える影響と家族が療養者に与える影響を理解する</li> <li>5 在宅看護の対象を、健康障害をもちながら療養する療養者と家族であり、家族が看護の単位であると理解する</li> </ol>				
技術項目					
授業概要	地域・在宅看護における対象である本人と家族について理解を深めます。本人と家族の役割や影響について、家族看護専門看護師からと、各領域の担当看護師から学びます。				
授業展開	内容		準備等	担当者	
	1	地域・在宅看護の対象の理解 1) 地域・在宅の対象 2) 家族とは・役割・影響・変化の理解	・地域・在宅看護とは ・地域・在宅看護の対象	亀山美穂	
	2	家族看護を学ぶ意義 在宅看護における人間関係の基本 1) 人間関係づくり 2) 家族へのアプローチ	講義・グループワーク・動画視聴等	加藤智子	
	3	様々な対象と家族について理解する 1) 女性と家族、男性と家族 2) 子どもと家族		加藤智子	
	4	様々な対象と家族について理解する 3) 成人と家族		加藤智子	
	5	様々な対象と家族について理解する 4) 療養者(終末期も含む)と家族		加藤智子	
	6	家族を支援する看護師の基本的な姿勢 意思決定支援(ACP)とは 意思決定支援における看護師の役割	講義・グループワーク	亀山美穂	
	7	地域における看護師への期待 医療専門職との連携 健康障害をもちながら療養する療養者と家族について、事例を用いて考える	講義・グループワーク	亀山美穂	
	8	様々な対象と家族について理解する 障がい児・者と家族	・講義・グループワーク・動画視聴等	佐野可代子	
	9	様々な対象と家族について理解する 5) 高齢者と家族 家族関係論	講義・グループワーク・動画視聴等	加藤智子	
10	終了試験		亀山美穂		
履修条件	地域・在宅看護概論の履修が終了していること				
評価方法	出席日数 授業態度(演習への参加態度も含む) 課題提出状況 パフォーマンス評価 ポートフォリオ等 終了試験				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 医学書院 医療福祉総合ガイドブック 医学書院 国民衛生の動向				
参考書	適時、提示します				
備考					

## 看護学科

## 講義要綱

科目	地域・在宅看護の方法Ⅰ (専門職連携)		単位数	1	開講時期	2年前期
授業形態	合同学習・演習		時間数	10(30)	必修区分	必修
担当者	看護師 亀山 美穂(8) 佐野 可代子(2)					
授業目的	職種特性を生かし、対象の目標達成、課題解決に向けての方法をともに検討し、多職種協働の実現を可能にする能力を身につける。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各専門職の役割と責務について、専門職間で共有する。</li> <li>2 専門職種でのコミュニケーション能力を獲得する</li> <li>3 対象者志向の倫理観を持つ。</li> <li>4 専門職種で対象者の目標を共有する。</li> <li>5 対象者の目標達成、ケアの質向上に向けて共に考える。</li> <li>6 多職種連携・協働に向けての展望をともに語る。</li> </ol>					
技術項目						
授業概要	専門職種である介護福祉士の学生(2年生)との共同学習となります。同一事例をもとに対象の目標や課題、多職種連携と専門性を一緒に考えていきます。					
授業展開	内容		準備等		担当者	
	1	在宅看護における人間関係の基本 対象者の目標達成に向けての多職種連携	・専門職種連携 ・講義・グループワーク ・動画視聴等		佐野可代子	
	2	IPE(専門職連携教育) 事例紹介とアセスメント展開	・事例の調べ学習 ・講義・グループワーク ・まとめ		亀山美穂	
	3	アセスメント展開とまとめ				
	4	まとめと準備				
5	ポスターセッション					
履修条件	2年次の講義となりますが、IPEに関しては、1年次に多職種の学生と顔合わせなどの交流を行ったうえでの本項となります。					
評価方法	終了試験 ポスターセッション パフォーマンス評価等					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤		医学書院			
	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践		医学書院			
	医療福祉総合ガイドブック		医学書院			
参考書						
備考						

## 看護学科

## 講義要綱

科目	地域・在宅看護の方法Ⅱ	単位数	1	開講時期	2年後期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 亀山 美穂(12) 看護師 漆畑 理津子(4) 看護師 市川真由子(12) 医師 遠藤 博之(2)				
授業目的	対象が望ましい暮らしをするための看護実践について理解する				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域・在宅看護における援助関係の基本を理解する</li> <li>2 訪問時の態度やマナーが人間関係成立の要因になることを理解する</li> <li>3 生活支援の方法と技術を理解する</li> <li>4 地域・在宅看護で医療管理を必要とする人への看護の方法と技術を理解する</li> <li>5 慢性期、終末期など、健康障害に応じた看護の方法と技術を理解する</li> <li>6 在宅療養者・家族の生活の質の向上を考え、看護師の果たす役割を学ぶ</li> <li>7 多職種の方からの講義から、各々の専門性と役割を理解する</li> </ol>				
技術項目	8:膀胱留置カテーテルの管理 45:薬剤の管理(麻薬) 68:医療機器の操作・管理(人工呼吸器)				
授業概要	地域・在宅看護で医療管理や専門職との連携や関わりの実践について学ぶ。様々な職種や在宅専用器具などに触れ、地域・在宅における看護の役割を深める。そこから、暮らしの質を支えることと医療的看護について学んでいく。				
	内 容		準備等	担当者	
授業展開	1	在宅療養者・家族を支えるとは？ ・在宅看護の特徴と地域包括ケアシステム、対象の理解	・地域包括ケアシステム ・地域における看護の役割	亀山美穂	
	2	在宅看護(訪問看護)における社会保険制度とマナー ・介護保険と医療保険・訪問時マナー	・地域・在宅看護に関連する法律や制度	市川真由子	
	3	看護ケアマネジメントの実際：事例から訪問看護計画の立案	・事例の調べ学習 ・訪問看護計画	市川真由子	
	4	看護ケアプランの計画・立案・演習：生活援助技術のワーク	・講義 ・グループワーク	市川真由子	
	5				
	6	看護ケアプランの実際・発表	・学びの発表	市川真由子	
	7	医療を必要とする人の看護 ・皮膚の処置を必要としている対象の看護 褥瘡予防ケア・ストーマ管理など	・講義・演習 ・グループワーク	漆畑理津子	
	8	在宅における医療処置がある対象の看護 ・在宅中心静脈栄養法	・地域・在宅における看護技術	市川真由子	
	9	医療を必要とする人の看護 ・薬物療法や在宅膀胱留置カテーテルをうけている対象の看護 ・在宅経管栄養法をうけている対象の看護	・講義・演習 ・動画視聴等	漆畑理津子	
	10	在宅酸素療法の実際(呼吸療法認定士による) ・在宅酸素療法とNIPPV療法の対象・器具の理解・急時の対応	・講義・演習 ・地域における看護の役割	亀山美穂	
	11	在宅療養者の自立支援の実際 ・福祉用具・住宅環境の活用と実際、福祉用具の製作	・地域リハビリテーション推進センター ・見学・体験学習	亀山美穂	
	12				

	13	在宅での終末期医療・看護について；終末期にある療養者・家族の看護	・地域における看取りとは ・看護の役割について	遠藤博之
	14	在宅での終末期看護：臨死期・死別期にある療養者・家族の看護	・地域における看取りとグリーフケア	亀山美穂
	15	終了試験		亀山美穂
履修条件	地域・在宅看護論概論・演習・Iを履修していること			
評価方法	出席日数 授業態度（演習への参加態度も含む） 課題提出状況 ポートフォリオ等			
テキスト	系統看護学講座 専門分野	地域・在宅看護の基盤	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野	地域・在宅看護の実践	医学書院	
参考書				
備考				

## 看護学科

## 講義要綱

科目	成人看護の方法Ⅰ（慢性期看護）	単位数	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 玉木 恭子（22） 慢性心不全認定看護師 平岡 佐知子（2） 脳卒中リハビリテーション認定看護師 小澤 尚子（2） NICD認定看護師 小川 千代子（4）				
授業目的	慢性期の経過と対象の暮らしをアセスメントし、その人らしく暮らせる看護を学ぶ				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>慢性疾患の患者は、生活習慣や障がいを抱かえることがあり、暮らし・生活の行動変容と、慢性性の病いにより患者が体験する痛みの軌跡を理解する。</li> <li>慢性疾患によって今後続く治療を理解し、患者が病状をコントロールしていくための支援の方法について理解する。</li> <li>患者が退院に向けて疾患や症状を抱えながらも自らヘルスプロモーションができるように、患者に合わせた方法で退院指導を実施する。</li> </ol>				
技術項目	4：食事指導 13：車いす介助 15：移乗介助 17：自動・他動運動の援助 65：安全な療養環境の整備 69：安楽な体位の調整				
授業概要	慢性疾患の患者への看護の方法を学ぶ。 前半は講義にて学習する。認定看護師の講義もあり、臨床での看護実践も踏まえ、根拠に基づいた最新の看護を学ぶ。 後半では、グループで共同学習を行い、慢性期の患者の事例展開とシミュレーション学習を行う。				
授業展開	内容		準備等		担当者
	1	慢性期看護総論			玉木恭子
	2	糖尿病患者の看護	病態生理・形態機能学の復習	玉木恭子	
	3	透析療法患者の看護		玉木恭子	
	4	慢性心不全患者の療養の実際と看護		平岡佐知子	
	5	リハビリテーションと看護		小澤尚子	
	6	難病患者の看護1（ALS患者の看護）		小川千代子	
	7	難病患者の看護2（遷延性意識障害の患者の看護） コミュニケーションが困難な患者との関わり			
	8	事例検討 糖尿病患者の事例検討（全員）	患者全体像の作成・看護計画立案		玉木恭子
	9	事例検討・発表 糖尿病患者の看護検討			玉木恭子
	10 11 12	事例検討…どちらかの事例行う 透析療法を受ける患者の看護検討 脳疾患後の患者の看護検討	グループワーク・演習		玉木恭子
	13 14	看護検討の発表	各グループ発表		玉木恭子
	15	終了試験			玉木恭子
履修条件	事前に学習している形態機能学、病態生理学、臨床医学特論の知識を活用できるように復習しておきましょう。				
評価方法	筆記（終了） 試験、演習評価、グループワーク評価				
テキスト	系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院（玉木） 系統看護学講座 内分泌・代謝 医学書院（玉木） 系統看護学講座 腎・泌尿器 医学書院（玉木） 系統看護学講座 循環器 医学書院（平岡） 系統看護学講座 脳・神経 医学書院（小澤・小川） 系統看護学講座 運動器 医学書院（小澤） 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護（小澤・小川）				
参考書	看護がみえる vol 3・4 メディックメディア				
備考					

## 看護学科

## 講義要綱

科目	成人看護の方法Ⅱ（周術期看護）	単位数	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看教師 玉木 恭子 (24) 皮膚・排泄ケア認定看護師：府川 博俊 (2) 手術看護認定看護師 杉浦 弘明 (4)				
授業目的	心身に大きな影響を受ける手術療法に臨む患者が、手術前後を良好に経過でき、その後の生活の再調整が図れる看護を学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 手術療法を受ける患者に起こる、手術や麻酔による侵襲と生体反応、合併症を理解し、術後の回復を支える看護を学ぶ。また、手術部位の創傷管理の実際や、術後の機能障害に対する生活様式の変更への援助を学ぶ。</li> <li>2 患者が安全に安心して手術を受けられるよう、患者の術式や麻酔に応じた手術前の援助を考える。</li> <li>3 術後の合併症を予防し、早期回復を図るよう、術後の援助を考える。また、術後回復していく中で、社会復帰に向けた援助を理解する。</li> </ol>				
技術項目	12:ストーマ管理 29:体温調節 30:酸素吸入法の実施 35:褥瘡ケア 36:創傷処置 37:ドレーン処置 44:点滴静脈内注射管理				
授業概要	周術期患者への看護の方法を学ぶ。 前半は講義にて学習する。認定看護師の講義もあり、臨床での看護実践も踏まえ、根拠に基づいた最新の看護を学ぶ。 後半は、グループワークなども取り入れ、生体反応、合併症などの知識の理解を深めたり、周術期にある患者の事例展開（計画・実施）をシミュレーション学習を取り入れ実践的に学習する。 3年次の成人看護学実習で知識や技術が活用できるように学ぶ。				
授業展開	内容		準備等		担当者
	1	周術期総論	動画（ビジュラン）の術前～術後の看護を視聴する		玉木恭子
	2	術前看護	成人看護学実習記録用紙Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの準備		玉木恭子
	3	術中看護			杉浦弘明
	4	術中看護			杉浦弘明
	5	術後看護			玉木恭子
	6	術後看護の実際			玉木恭子
	7	創傷管理の知識			府川博俊
	8 ～ 14	脳動脈瘤クリッピング術、腹腔鏡下胆のう摘出術、腹腔鏡下直腸低位前方切除術、肺葉切除術などの事例を用いて、グループワークやシミュレーション学習を行う。			玉木恭子
15	終了試験				
履修条件	事前に学習している形態機能学、病態生理、臨床医学特論の知識を活用できるように復習しておくこと。				
評価方法	課題・提出物の配点、終了試験、演習評価、グループワーク評価				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 系統看護学講座 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 脳神経 医学書院 系統看護学講座 別冊 クリティカルケア看護学 系統看護学講座 専門分野 呼吸器 医学書院				
参考文献	看護がみえる vol 3・4・5 メディックメディア				
備考					

看護学科

講義要綱

科目	成人看護の方法Ⅲ（救急看護）	単位数	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 高野 祐志（20）クリティカルケア認定看護師 村田 安隆（2） 救急認定看護師 高橋 綾子（6）クリティカルケア認定看護師 望月 誠（2）				
授業目的	急激な生命危機状態にある患者の生命を維持する看護を学び、自身のとる行動を考えることができる。				
到達目標	1 クリティカルな状態にある対象の特徴を理解する。 2 クリティカルな状態における支援の実際を理解する。 3 急変した患者に対して、生命を守るために必要な行動を起こす。				
技術項目	47:急時の応援要請 48:1次救命処置 49:止血法				
授業概要	講義と演習により、生命の危機に陥った対象やその家族の特徴や看護の方法を学ぶ。医師や認定看護師より、臨床での看護実践も踏まえ、根拠に基づいた最新の看護を学ぶ。後半では、グループに分かれ、共同学習を用いて急変対応に基づくシミュレーション学習を行う。				
授業展開	内容		準備等	担当者	
	1	急性期看護総論		高野	
	2	救急医療の特徴と実際		村田安隆	
	3	救急看護の方法①止血法		高野	
	4	救急看護の方法②心電図モニターと波形診断	ポロシャツ、ズボン	高野	
	5	生命危機に陥るメカニズムとその対応	個人ワーク グループワーク	高野	
	6			高野	
	7			高野	
	8	急変時の看護・救急看護の実際・実践①		高橋綾子	
	9	救急看護の実際・実践②救急看護演習（BLS）	ポロシャツ、ズボン 髪をまとめるゴム 体育館シューズ持参	高橋綾子	
	10	救急看護の実際・実践②救急看護演習（BLS）		高橋綾子	
	11	集中治療看護		望月誠	
	12	救急看護の方法③事例シミュレーション	ここまでの授業内容を復習しておく	高野	
	13			高野	
	14			ユニフォーム	高野
15	終了試験		高野		
履修条件	事前に学習している形態機能学、病態生理学、臨床医学特論の知識を活用できるように復習しておくこと。				
評価方法	課題レポート、個人ワーク、グループワーク、筆記（終了）試験				
テキスト	系統看護学講座 成人看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護 医学書院 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護 医学書院				
参考書	看護における危機理論・危機介入 金芳堂				
備考					

看護学科 講義要綱

科目	成人看護の方法Ⅳ（がん看護・終末期看護）	単位数	1	開講時期	2年後期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 玉木 恭子 (18) 緩和ケア認定看護師 高木 陽子 (6) がん化学療法看護認定看護師 岩科 麻見 (4) がん放射線療法看護認定看護師 杉山 美和 (2)				
授業目的	成人期の役割を果たしながら、がんと向き合いその人らしく生きられる看護を学ぶ。 がん治療の理解を深め、病理、抗がん剤治療、ホルモン剤治療、放射線治療の基本を理解し、治療を受ける患者の基本的な理解ができる。 がんにより患者が人生を終えようとしている時期に、生活の質を保ち、苦痛を少なく、その人にとって良い死を迎えられる看護を学ぶ。 がんを患った成人期の対象はもちろん、本人を取り巻く家族などの状況や背景などを考える。				
到達目標	1 死亡率第1位であるがんに対する主要な治療方法と看護を理解する。 2 終末期医療、緩和ケアの具体的知識を理解する。 3 仕事や家庭をもちながらがん治療を受ける患者が、継続して社会で活躍できるように看護を実施する。 4 終末期の患者が苦痛を緩和し、その人らしく過ごせる看護を実践する。				
技術項目	44:点滴静脈内注射の管理 45:薬剤等の管理 66:放射線被ばく防止策 69:安楽な体位の調整 70:安楽の促進・苦痛緩和のためのケア 71:精神的安寧を保つためのケア				
授業概要	がん患者の看護、終末期の看護の方法を学ぶ。 前半は講義で学習する。認定看護師の講義もあり、臨床での看護実践も踏まえ、根拠に基づいた最新の看護を学ぶ。 後半は共同学習を用いて、がん患者・終末期の患者への看護の視点や、看護の実際を学ぶ。				
授業展開	内容		準備等		担当者
	1	がん看護総論 がん対策、がんの疫学			玉木 恭子
	2	がん化学療法の看護①	薬理学の知識を活用		岩科 麻見
	3	がん化学療法の看護②			
	4	がん放射線療法の看護	臨床医学特論・放射線の復習		杉山 美和
	5	終末期看護総論			高木 陽子
	6	緩和ケア（疼痛コントロール、スピリチュアルケア）			
	7	臨死期の看護と看取り			
	8	アドバンスケアプランニング	課題あり		玉木 恭子
	9	尊厳死について考える（意思決定支援・倫理的課題）	課題あり		
	10	終末期における「尊厳」「希望」の意味 文献学習	課題あり		
	11	成人期の発達課題と向き合い生きるがん患者の課題 がんサバイバー、AYA世代のがん	課題あり		
	12	事例をもとにケア計画の作成（GW）			
	13	事例に対する看護計画の発表	演習（実習室） ユニホーム着用		
	14	看取り・グリーフケア			
15	終了試験				
履修条件	事前に学習している形態機能学、病態生理学、臨床医学特論の知識を活かせるよう復習しておくこと。				
評価方法	筆記（終了）試験、演習・グループワーク評価				
テキスト	系統看護学講座 別巻 がん看護 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 系統看護学講座 別巻 家族看護 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 系統看護学講座 別巻 消化器 医学書院 系統看護学講座 別巻 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 別巻 血液・造血 医学書院				
参考書					
備考					

## 看護学科

## 講義要綱

科目	成人看護の方法Ⅴ(成人臨床看護技術)	単位数	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 木下 真理子(14) 森 康太(16)				
授業目的	臨床で行われる専門性の高い看護技術を、体験的に学ぶ。 臨地実習で活用できるように、知識を基に正確に技術を習得する。				
到達目標	1 診療の補助に関連する臨床看護技術を、目的や方法、根拠を明らかにした上で体験する。実施後は振り返りを行い、技術や知識の定着を図る。 2 技術を演習することで基本的な技術の習得を図る。				
技術項目	30:酸素吸入の実施 31:ネブライザーを用いた気道内加湿 32:口腔内鼻腔吸引 33:気管内吸引 34:体位ドレナージ 36:創傷処置 37:ドレイン類の挿入部の処置 41:皮下注射 42:筋肉注射 43:静脈路確保 44:点滴静脈内注射の管理 52:フィジカルアセスメント 54:簡易血糖測定 56:検査の介助 64:患者誤認防止策の実施				
授業概要	シミュレーション事例の時期に合わせ臨床看護技術演習を行うので、シミュレーションの事例をアセスメントするときは、本演習の技術を活用する。 この演習では、実習では実際に体験できない侵襲の高い技術を行うので、積極的に参加して体験してほしい。また、清潔操作などすでに習った知識を必要とするので、予習して演習に望むようにしたい。				
授業展開	内容		準備等		担当者
	1	酸素吸入・気道内加湿	事前課題		木下
	2	呼吸法・体位ドレナージ	事前課題		
	3	吸引(口腔・鼻腔、気管)	事前課題		
	4	創傷処置・ドレイン類の管理	事前課題		
	5	心電図	事前課題		
	6	脳神経・感覚器のフィジカルアセスメント	事前課題		
	7	講義:注射法			森
	8	簡易血糖測定と皮下注射の実際	事前課題(援助計画作成)		
	9	静脈内注射①準備	事前課題(援助計画作成)		
	10	静脈内注射②実施	事前課題(援助計画作成)		
	11	点滴静脈内注射①準備	事前課題(援助計画作成)		
	12	点滴静脈内注射②実施	事前課題(援助計画作成)		
	13	筋肉内注射	事前課題(援助計画作成)		
	14	注射法まとめ(技術チェック)			
15	終了試験			木下	
履修条件	事前課題がある場合、課題は必須。演習前は基礎実習室の事前準備を行っておくこと。				
評価方法	出席・課題提出状況と終了試験結果を考慮し評価する。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 写真でわかる臨床看護技術① 本庄恵子 インターメディカ 写真でわかる臨床看護技術② 本庄恵子 インターメディカ				
参考書					
備考					

科目	老年看護の方法Ⅰ (高齢者の健康生活への援助)		単位数	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義・演習		時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 亀山 美穂 (10) 内藤 さおり (10) 認知症看護認定看護師 釜下 佳代子 (4) 摂食嚥下障害認定看護師 宇佐美 冴子 (6)					
授業目的	高齢者の健康生活を維持するための援助として、食事・排泄・活動・休息について具体的に学ぶと共に、加齢に伴う認知症についての知識を深めることで、高齢者が地域で暮らして行くために必要な支援について考える。					
到達目標	老年期にある対象の日常生活力とそれに及ぼす影響を理解し、健康生活への援助について学ぶ。					
技術項目	4：食事指導（食形態の工夫） 17：自動他動運動		7：排泄援助（オムツ交換） 20：整容（爪切り）		11：摘便 26：口腔ケア 14：歩行訓練 65：安全な療養	
授業概要	講義・演習 1年生の基礎看護学で学んだ日常生活援助技術と、老年期にある高齢者の特徴を考えながら、高齢者の生活援助について学びます。					
授業展開	内容			準備等		担当者
	1	高齢者の日常生活力アセスメントの視点① ・高齢者のコミュニケーションの特徴とその関わり方 ・高齢者の「みる」「きく」とは		・高齢者のアセスメントの視点 ・コミュニケーションとは何かを振り返り、コミュニケーションに必要な身体機能についてリストアップする ・各機能の加齢に伴う変化機能の低下		亀山 美穂
	2	高齢者の日常生活力アセスメントの視点② ・高齢者のコミュニケーションに影響する要因		・高齢者のコミュニケーションにおける、加齢に伴う身体機能の低下と、コミュニケーションに影響する要因		
	3	高齢者のヘルスアセスメント		・日常生活活動（動作）の評価方法について		
	4	老化が食生活に及ぼす影響を理解し、生活を整えるための援助① ・高齢者の嚥下機能のアセスメント ・高齢者の脱水のリスクと予防		・摂食嚥下機能について復習し、老化によりどのような変化が生じるのか学習 ・とろみ剤の使用と、市販の高齢者用食品の摂取を体験して、レポートを作成		宇佐美 冴子
	5	老化が食生活に及ぼす影響を理解し、生活を整えるための援助② ・嚥下機能の合わせた食形態の工夫 ・とろみ剤の活用		・とろみ剤を使用せず、誤嚥を防げるような食事メニューを考え、調理と試食をしてレポートを作成 ・誤嚥を予防するための援助について食事前・食事中・食事後に分けて学習		
	6	老化が食生活に及ぼす影響を理解し、生活を整えるための援助③ ・嚥下訓練・義歯の手入れと着脱 ・口腔ケア		・演習前課題		
	7	老化が食生活に及ぼす影響を理解し、生活を整えるための援助④ ・嚥下訓練・義歯の手入れと着脱の実際 ・口腔ケアの実際		・嚥下訓練の実際を体験する ・モデルを用いて義歯の手入れと着脱の実際を体験する ・口腔ケアの実際を体験する		内藤 さおり
8	老化が排泄機能に及ぼす影響を理解し、排泄を整えるための援助① ・尿失禁の種類と援助		・排泄に必要な身体機能について振り返る ・排泄に関連する能力の加齢による変化と、生活への影響について ・尿失禁・便失禁について学習			

	9	老化が排泄機能に及ぼす影響を理解し、排泄を整えるための援助② ・便秘予防と排便困難時のケア	・おむつでの排泄体験をして、レポートを作成 ・摘便の学習（適応・禁忌・使用物品・方法・観察項目など）	内藤 さおり
	10	高齢者の脱水を予防し、水分・電解質バランスを整える援助	・脱水の分類と高齢者の特徴	
	11	高齢者と生活リズム	・高齢者の健康生活について特徴的な変調 ・高齢者の生活リズムを整える看護	
	12	高齢者とACP（アドバンス・ケア・プランニング）における看護の役割	・シンポジウム形式による事例を通じたグループワーク	亀山 美穂
	13	認知症をもつ高齢者とのコミュニケーション 認知症をもつ高齢者の生活支援		釜下 佳代子
	14	地域でくらす認知症をもつ高齢者と家族への社会資源とその活用		釜下 佳代子
	15	終了試験		亀山 美穂
履修条件	1年次に学んだ基礎看護学の知識・技術、老年期の特徴についての知識が基盤になります。既習の知識・技術の振り返り主体的な学習を期待しています。また、高齢者が生活している場面を意識して見つめ、日頃から高齢者に関心を持つ姿勢を期待します。			
評価方法	・筆記（終了）試験70点、・課題30点・課題の提出状況 講義・演習を通して高齢者がどんな生活を体験しているのか想像し、高齢者の援助について思ったこと・考えたことを大切にしたいと願っています。それを表現する課題を随時出す予定でいます。 *課題は決められた提出期限内に提出されてはじめて評価対象とし、その上で内容を評価します。			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 医学書院			
参考書	国民衛生の動向 (財)厚生統計協会 生活機能からみた老年看護過程 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院			
備考	理論・概念 ストレングスモデル、認知症者のパーソン・センタード・ケア、ICFモデル 制度 成年後見人制度			

## 看護学科

## 講義要綱

科目	老年看護の方法Ⅱ (人生の最終段階にある高齢者の看護)	単位数	1	開講時期	2年後期
授業形態	講義・演習	時間数	15	必修区分	必修
担当者	看護師 佐野 繁子(11) 緩和ケア認定看護師 梶浦 やすえ(4)				
授業目的	長期臥床状態・終末期にある高齢者を理解し、自己の高齢者観や死生観に向き合うことで、倫理的判断に基づいた看護を実践するための方法を学ぶ。				
到達目標	人生の最終段階にある高齢者の看護を実践するための方法を学ぶ				
技術項目	69:安楽な体位の調整 70:安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア				
授業概要	人生の最終段階にいる老年期だからこそ、そこでの時間はより生と共に終末を意識します。その人らしく生ききることを意識した看護とは、どのような援助が必要なのか。自己の看護観と共に死生観を意識する機会にもなります。生命の尊厳について真剣に考え学んでいきましょう。				
授業展開	内容		準備等		担当者
	1	自己の今の死生観に向き合い、今思う終末期にある対象への看護を表現する 統計データ・高齢者の特徴に注目し、用語について理解する	既習学習の振り返り		佐野繁子
	2	終末期の身体的な変化を理解したケア、死後の身体的変化を理解した死後のケア、その意味を考える	テキストの該当箇所を読む		梶浦やすえ
	3	事例の苦痛の緩和と予防に向けたポジショニングの工夫・療養環境の調整について考えた援助を実践し、工夫を見い出す	事例の状態をアセスメント 既習の知識・技術に学習を加えて方法を検討		佐野繁子
	4	遺族を支える援助～グリーンケア～	テキストの該当箇所を読む		梶浦やすえ
	5	高齢者の人生グラフを用いて高齢者の生死の考えや希望を知り、死の迎え方の意向、看取りの意向を尊重した看護を考える	高齢者にインタビューを行い、人生グラフを作詞		佐野繁子
	6	人生の最終段階にあり変化する高齢者・家族への看護実践を提案し、高齢者のエンドオブライフケアの特徴と看護師の役割を見い出す	事例を読み、意向を理解し、計画を考える		
	7				
8	学習成果を確認し、課題を見い出す				
履修条件	授業回数が少ない中でグループワークを行います。体調管理して意欲的に参加してください。また、自己の人生観や死生観にも向き合う機会となることを期待します。				
評価方法	・終了試験70点、 ・学習姿勢10点・課題20点 課題内容及び評価についてルーブリックを授業内で示す 課題は提出期日までに提出、やむを得ない場合は事前に相談してください。				
テキスト	系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 老年看護 病態・疾病論 医学書院 系統看護学講座 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院				
参考書	国民衛生の動向 (財)厚生統計協会				
備考	理論・制度 危機理論(死の受容過程)				

科目	老年看護の方法Ⅲ (治療を選択し生活する高齢者の看護)	単位数	1	開講時期	2年後期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 亀山 美穂 (28) 看護師 フラピエ かおり (2)				
授業目的	老化による生活への影響や治療を受けながら生活を送っている高齢者を想像し、高齢者に必要な看護を学びます。自己の高齢者観も意識しながら学んでいきましょう。				
到達目標	治療を受けながら生活していく高齢者を理解し、看護を実践するための方法を学ぶ。				
技術項目	8:膀胱留置カテーテルの管理 13:車椅子での移送 15:移乗介助 16:体位変換・保持17:自動・他動運動 38:経口薬 39:経皮・外用薬52:フィジカルアセスメント 66:安全な療養環境の整備(転倒転落外傷予防) 69:安全な体位の調整70:安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア 71:精神的安寧を保つためのケア				
授業概要	高齢者の身体変化と高齢者に多い疾患への看護実践への学習を行います。ここでの学びは臨地実習にも活かせる内容です。事例検討やグループワーク・発表と仲間と一緒に看護について考え共有し老年看を深めていきます。				
授業展開	内容		準備等		担当者
	1	高齢者の生活と健康障害の特徴の理解 ・既習学習の復習 ・加齢による変化を踏まえた健康障害の特徴			亀山美穂
	2	老化が治療に及ぼす影響の理解 ・老化が薬物動態に及ぼす影響と看護 ・老化が周手術期に及ぼす影響と看護	○既習学習の振り返り ・手術前・中・後の看護 ・薬物動態		フラピエかおり
	3	薬物療法を受けながら生活する高齢者の看護 ・老化を踏まえた確実な服薬への援助 ・事例展開	○事例展開 ・事例の問題点を挙げる		亀山美穂
	4	手術療法を受ける高齢者の看護 ・術後合併症リスクのアセスメント リハビリテーションを受ける高齢者の看護 ・高齢者のリハビリテーションの特徴	○既習学習の振り返り ・手術前・中・後の看護 ・リハビリテーション		亀山美穂
	5	事例展開に使用する疾患の理解 ・前立腺肥大症について ・大腿骨頸部骨折について	○既習学習の振り返り ・前立腺肥大症 ・大腿骨頸部骨折 *病態・治療法について		亀山美穂
	6	演習 ・尿道留置カテーテル挿入中の看護 ・股関節の人工骨頭置換術後の患者の看護 ・弾性ストッキングの着脱	○演習内容の調べ学習		亀山美穂
	7	看護過程の復習 ・記録用紙の使用法 ・事例展開の具体的方法	○看護過程とは何か、どのように計画立案するのかを振り返っておく		亀山美穂
	8	事例の共有 ・チーム内での共有とペア学生への情報提供	○事例展開		亀山美穂
9	課題①:手術後の看護計画 ・TUR-P後の体動制限とせん妄予防 ・人工骨頭置換術後の安楽な体位保持	○看護計画を立案してくる		亀山美穂	

授業展開	10	課題①:手術後の看護計画の実践と申し送り ・TUR-P後の体動制限とせん妄予防 ・人工骨頭置換術後の安楽な体位保持	○援助が実践できるように準備する	亀山美穂
	11	課題②:計画 ・尿道留置カテーテル挿入中の車いす移乗 ・禁忌肢位のある患者の移乗	○看護計画を立案してくる	亀山美穂
	12	課題②:実践と申し送り ・尿道留置カテーテル挿入中の車いす移乗 ・禁忌肢位のある患者の移乗	○援助が実践できるように準備する	亀山美穂
	13	課題③:計画 ・膀胱留置カテーテル挿入中の安全な歩行 ・荷重 1/2 指示の安全な歩行	○看護計画を立案してくる	亀山美穂
	14	課題③:実践と申し送り ・膀胱留置カテーテル挿入中の安全な歩行 ・荷重 1/2 指示の安全な歩行	○援助が実践できるように準備する	亀山美穂
	15	退院支援:計画と実践(パンフレット作成) ・TUR-P後の退院生活を支援する ・股関節人工骨頭置換術後の生活を支援する  終了試験	○退院支援のためのパンフレットを高齢者に使用できる形で作成する	亀山美穂
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体調を整え、主体的な学習を期待します</li> <li>・既習の知識を事前学習で振り返って授業に望んでください</li> </ul>			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の提出状況</li> <li>・GWの評価(チームワーク・資料・発表)</li> <li>・終了試験(60点)</li> </ul> <p>*終了試験を受けるにあたり、出席状況に加え、出欠席に関係なく全部のレポートが提出されていることが条件となります。</p>			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 系統看護学講座 専門Ⅱ 腎・泌尿器 系統看護学講座 専門Ⅱ 運動器 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 系統看護学講座 別巻 家族看護学	医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院		
参考書				
備考				

## 看護学科

## 講義要綱

科目	小児看護学概論		単位数	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義		時間数	15	必修区分	必修
担当者	看護師 松本 めぐみ					
授業目的	地域に暮らす子どもとその家族を取り巻く環境を理解する。社会の動きによる暮らしへの影響を学び、子どもの権利を尊重するための姿勢を学ぶ。					
到達目標	成長・発達過程にあるこどもの特徴を学び、こどもの基本的人権を守る意義を考え、変化する社会の中で小児保健がどのように発展してきたのかを学び、今後の動向を踏まえて看護の役割を考える。					
技術項目						
授業概要	少子高齢化社会の中で、こどもを取り巻く社会は大きく変化しており、母親の育児不安や児童虐待などの問題が生じている。現代社会のこどもを取り巻く環境をふまえ、小児看護の対象であるこどもと家族を理解していく。また、小児期は成長・発達の著しい時期であり、成長・発達に関わる健康問題も多くある。成長・発達の観点からも小児という対象を理解していく。					
授業方法	講義は一方向的にならないように4人組のワークを行いながら進めていきます。					
授業展開	回数	内容			準備等	担当者
	1	小児看護学の位置づけ・構成 小児看護の対象				松本 めぐみ
	2	小児看護の目標と役割 小児と家族の諸統計 こどもと医療				
	3	小児をめぐる法律と政策 小児保健・福祉行政の推移・母子保健				
	4	小児看護における倫理 小児看護の課題				
	5	小児の成長・発達 成長・発達とは、一般原則、小児各期の特徴				
	6	小児の成長・発達に影響する因子 小児の成長・発達の評価				
	7	小児をめぐる問題			グループ ワーク	
8	終了試験					
履修条件	日頃から自分のこどもの頃を振り返ることや周囲にいるこどもの様子から、小児についての興味や関心をもって授業に臨んでください。また、新聞、メディアや書籍などを活用することで、講義の内容の理解を深めていきましょう。					
評価方法	グループワークの状況 終了試験					
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院 国民衛生の動向 (財)厚生統計協会					
参考書						
備考						

看護学科

講義要綱

科目	小児看護の方法 I	単位数	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義・演習・ワーク	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 井出 見也子				
授業目的	子どもの成長発達の特徴や、小児を取り巻く環境や様々な問題を知り、子どもが健やかに育つために必要な看護を学ぶ。				
到達目標	子どもの成長発達の特徴や評価について学ぶ。主体的なあそびの体験、基本的生活習慣の獲得への援助、成長発達を支える栄養、安全・事故や犯罪防止、災害から子どもを守る実際について考え、演習で実践する。小児を取り巻く家族、生活環境やその急激な変化、社会問題について知り、静岡市の施策を踏まえてすべての子どもが地域で健やかに育つために必要な支援の方法を学ぶ。				
技術項目	7. おむつ交換				
授業概要	小児看護学概論で学んだ小児の成長発達の特徴をさらに深め、子どもの理解と日常生活の援助、家族への援助を考え、体験をしながら学んでいきます。				
授業展開	回数	内容	準備等	担当者	
	1	講義オリエンテーション こどものイメージ こどもと絵本、あそび 小児の成長・発達の法則・評価		井出 見也子	
	2	新生児期の特徴と看護① 胎児循環から新生児循環への移行 新生児期の生理的特徴 形態的特徴	循環器の 復習		
	3	新生児期の特徴と看護② 母乳栄養と看護 新生児と家族の看護 あそび 安全対策 家族関係 アタッチメント 退院時健診 母の健康と回復 1か月健診			
	4	乳児期前半の特徴と看護① 乳児の形態的・生理的特徴、運動機能、知的・情緒の発達、コミュニケーション、社会性と看護 あそび 安全対策			
	5	乳児期後半の特徴と看護② 乳児の形態的・生理的特徴、運動機能、知的・情緒の発達 コミュニケーション 社会性と看護 あそび 安全対策			
	6	幼児の特徴と看護① 形態的特徴、生理的特徴、運動機能、知的機能、コミュニケーションの発達、情緒・社会的機能と看護			
	7	幼児の特徴と看護② 日常生活動作の自立状況に応じた援助 あそび 安全対策 雨の日に楽しく過ごす遊び			
	8	小児の栄養、食育			
	9	乳幼児に予測される事故や犯罪と対策、防災			
	10	あそび 子育て支援～静岡市の取り組み～	発表		
11	学童の特徴と看護 学童期の成長発達 発達課題と情緒、社会性 不 適応行動 あそび、活動 安全対策				

	12	思春期の特徴と看護 第二次性徴における生理的変化、知的特徴 思春期の心と看護 揺れる心に寄り添うには 活 動 問題行動 安全対策	
	13 14	乳幼児の生活援助体験 おんぶ、抱っこ、バギー体験、自転車、チャイル ドシートの安全 安全マークについて レジャー の安全 更衣、おむつ交換	演習・グ ループワー ク
	15	終了試験	
履修条件	日頃、子どもたちと接することがない学生も多いと思いますが、自分の頭の中で具体的にイメージできるようテレビや新聞等の子どもに関する記事を見逃さないようにしていこう。登下校中などに出会う子どもたちの姿に少し注意して観察するようにしてみよう。また、自分の子ども時代の写真や作成した絵などを見直して、小児期を振り返ってみてください。機会が合ったらご家族に『どんな子どもだったか』自分の子ども時代の話聞いてみよう。		
評価方法	終了試験70% + レポート30点		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院		
参考書	国民衛生の動向 (財)厚生統計協会		
備考			

## 看護学科

## 講義要綱

科目	小児看護の方法Ⅱ	単位数	1	開講時期	2年後期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	医師 西田 光宏(10) 橋本 伸弘(10) 看護師 井出 見也子 (10)				
授業目的	小児期に特有な疾患及び治療の実際を理解し、必要な看護を学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 小児の健康障がいの特徴を理解する</li> <li>2 小児に代表的な疾患の病態、症状、診断、検査、治療と看護について理解する</li> <li>3 小児が健康障がいを抱えることで、児や家族に及ぼす影響について考え、看護の具体案を立てる</li> </ol>				
技術項目					
授業概要	小児医療の高度化・療養上の選択肢の多様化に伴い、小児医療の場では、広範囲に及ぶ専門的な知識や技術が必要になります。小児の発達段階に応じて、あるいは児や家族がおかれている状況に応じて看護実践をしていくことが求められるため、様々な健康障がいとその影響を学び、看護の具体と実践について考えます。				
授業展開	回数	内容	準備等	担当	
	1	代謝性疾患、内分泌疾患 成長ホルモン、低身長		橋本伸弘	
	2	染色体異常 ダウン症候群、プラダーウィリー症候群			
	3	小児の感染症と予防接種 ウイルス感染症、細菌感染症			
	4	小児救急と冬季に流行する感染症 インフルエンザ、ノロウイルス、ロタウイルス、RSウイルス			
	5	血液、造血器疾患、悪性新生物 血友病、紫斑病、白血病、神経芽腫 新生児について			
	6	ネフローゼ症候群 Ⅰ型糖尿病		西田光弘	
	7	循環器疾患 先天性心疾患、川崎病			
	8	小児のけいれん 熱性けいれん、てんかん、脳性麻痺			
	9	小児のアレルギー疾患 気管支喘息、クループ、食物アレルギー			
	10	新生児の疾患 低出生体重児に起こりやすい疾患と問題			
	11	健康障がいを抱えた小児と家族の看護の理解	事例展開	井出見也子	
	12	在宅で療養する小児と家族の看護の理解 ・事例展開と看護計画の立案	事例展開		
	13		指導案作成		
	14	指導案の内容について作品作り			
15	終了試験、作品の発表				
履修条件	講義で話す内容は、実践で役立つ内容を中心としているため、一語一句聞きもろさず集中して欲しい。講師への質問も期待している。小児の看護計画の立案、指導案と作品作りでは、様々な知識を活用してほしい。多くの書籍から情報を探し、対象に合わせた楽しくなる作品を作りましょう。				
評価方法	終了試験、課題内容				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院				
参考書					
備考					

## 看護学科

## 講義要綱

科目	小児看護の方法Ⅲ	単位数	1	開講時期	2年後期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	漆畑 潤(2) 看護師 草深 光子(2) 松本 めぐみ(20) 井出 見也子(6)				
授業目的	あらゆる状況や場における子どもと家族の健康な暮らしを理解し、必要な看護を実践できる能力を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 小児の健康障がい、成長発達や日常生活に及ぼす影響を理解する</li> <li>2 小児の健康の状況や疾患の経過に応じた特徴を理解する</li> <li>3 成長発達の妨げを最小限にし、子どもの最善の利益を目指した看護を実践するために必要な知識を学ぶ</li> <li>4 小児看護特有の看護技術を体験的に学ぶ</li> </ol>				
技術項目	50：バイタルサインの測定、51：身体計測				
授業概要	小児看護学概論、小児看護の方法Ⅰ・Ⅱを基盤として成り立っている科目です。既習の知識を総動員し、社会の中で暮らす小児の健やかな成長発達の促進へ向け、必要な看護を実践的に学びます。				
授業展開	回数	内容	準備等	担当	
	1	健康障がい子どもと家族に及ぼす影響 子どもの健康問題と看護の方向性		松本めぐみ	
	2	子どもにとっての病院環境とその看護 ・外来環境と入院環境 ・外来や入院における子家族の看護			
	3	急性期、慢性期にある子どもの看護 ・感染症に罹患した子どもと家族の看護 ・症状を示す子どもの看護 ・検査や処置を受ける子どもの看護			
	4	地域で暮らす健康や発達に障がいのある子どもと家族の看護 ・健康や発達に障がいのある子どもと家族の生活とそのニーズ、社会支援の実際		特定非営利活動法人 びゅあ 漆畑 潤	
	5	在宅療養中の子どもと家族の看護 ・在宅療養中の子どもと家族の特徴 ・小児訪問看護の実際		草深 光子	
	6	手術を受ける子どもと家族の看護 ・プレパレーション		松本めぐみ	
	7	終末期にある子どもと家族の看護 ・小児の死の概念 ・緩和ケア			
	8	救急救命処置の必要な子どもと家族の看護 ・小児の事故			
	9	ハイリスク新生児と家族の看護 ・ハイリスク新生児の特徴と看護の実際		井出見也子	
	10	こころに障がいのある子どもと家族の看護 ・子どもの心の反応とその特徴 ・発達障がいの特徴と支援の方法 ・小児の虐待と看護			
	11	小児看護に必要な技術			
12	小児看護に必要な技術 ・身体計測、バイタルサインの測定	演習	井出見也子		

	13	小児看護に必要な技術 ・抑制、与薬、輸液の管理	演習	
	14	災害をうけた子どもの看護		松本めぐみ
	15	終了試験		
履修条件	子どもを取り巻く現代社会における、大人の役割について常に考えをもってください。新聞やニュース、身近にいる子どもの生活など、子どもの目線から社会の動きをみつめ、看護の役割を見出していきましょう。			
評価方法	終了試験、課題レポート			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論/小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院			
参考書				
備考				

## 看護学科

## 講義要綱

科目	母性看護学概論		単位数	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義・グループワーク		時間数	15	必修区分	必修
担当者	看護師：井出 見也子 (13) 谷口 年江 (2)					
授業目的	母性とはなにか、さまざまな概念に触れ、自らの考えを広げたり深めたりしながら表現することができる。また、さまざまな性の価値観や役割が存在することを理解する。さらに、幅広い母性の対象について理解し、性と生殖に関わる社会の動向やライフスタイルの変化を知り、女性を守る法律や施策、看護との繋がりを学ぶ。					
到達目標	1 母性看護の主要概念、女性の権利、対象について理解する。 2 セクシュアリティ、ジェンダー、性教育の課題について理解する。 3 女性や母子、家族を取り巻く社会課題とその動向を知り、女性を守るための法律、母子保健施策について理解する。 4 「母性とは何か」を考えることで母性看護の役割について表現できる。					
技術項目						
授業概要	母性の対象の広がりや、社会情勢により変化する女性の生涯を理解しながら、「母性とはなにか」「母性看護の役割とはなにか」について主体的に考えられるように講義をすすめます。ワークを通し、命に対する自分の考えや思い、倫理観について深め、仲間と表現し合うことで豊かにしていきます。さらに、地域で生活する母性の対象を守る施策や法律について学び、必要な支援体制や看護について考えます。					
授業展開	回数	内容		準備等	担当	
	1	母性の概念、生命の誕生、性について			井出見也子	
	2	リプロダクティブヘルス/ライツ①		形態機能学Ⅳの復習		
	3	リプロダクティブヘルス/ライツ②		ワーク		
	4	セクシュアリティとジェンダー、性の多様化と支援			谷口年江	
	5	母子保健の変遷と動向、法律		国民衛生の動向	井出見也子	
	6	母性・父性・親性とパーソナリティ、家族の役割 母性の対象を理解する		ワーク		
	7	生殖医療における生命倫理と看護倫理				
	8	終了試験				
履修条件	昨今の母性を取り巻く社会状況は急激に変化しています。それに伴い女性の発達危機が重なる傾向にあり、女性の人生や身体的・心理的・社会的健康のほか、パートナー、子どもや家族、職場の人々など女性の周囲の人々の人生にも大きな影響を及ぼしています。それにも関わらず、価値観の多様化も加速し、女性への理解や支援が十分に整っているとはいえない状況にあります。支援の施策や母子保健の動向も踏まえ、母性看護の役割について考えましょう。また、性や命に関わるこの領域では、数多くの倫理的課題に直面します。自分自身の考えを見つめ、生命倫理や看護師としての倫理観を養っていきましょう。					
評価方法	出席、授業への参加状況、課題レポート、終了試験を総合し評価します。					
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 医学書院 国民衛生の動向 (財) 厚生統計協会					
参考書						
備考						

## 看護学科

## 講義要綱

科目	母性看護の方法 I	単位数	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義・グループワーク	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 井出 見也子 (28) 助産師 石川 美帆 (2)				
授業目的	ウイメンズヘルスを支える看護を理解する。女性のライフステージ各期における健康の特徴や社会的背景、直面しやすい発達危機やライフステージのつながりについて理解し、看護実践について考えることを通して対象のセルフケアや意思決定を支える看護を学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ライフステージ各期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴、発達課題や発達危機、健康と看護について理解する。</li> <li>2 リプロダクティブヘルスケア、ウーマンセンタードケアについて理解する。</li> <li>3 様々な状況下にある女性の看護について理解する。</li> <li>4 地域で生活する女性の健康を守るための関わりの実際を知る。</li> <li>5 協働学習を通し視野を広げながら、多職種連携について学ぶ。</li> </ol>				
技術項目					
授業概要	母性看護学概論では社会の影響を大きく受けながら生活している女性や母性看護の対象について学びました。ここではその内容をさらに具体化して、1人の女性の胎児期から始まる一生に着目しながら、各ライフステージにおけるホルモンの変化、身体的・心理的・社会的側面や発達課題に着目し、看護の視点を学んでいきます。また、ともに女性を支える立場である助産学科の学生との合同学習を通し、協働についても考えていきましょう。				
授業展開	回数	内容	準備等	担当	
	1	女性のライフサイクルとウイメンズヘルス		井出見也子	
	2	思春期女性の健康と看護①			
	3	思春期女性の健康と看護②			
	4	成熟期女性の健康と看護①			
	5	成熟期女性の健康と看護②			
	6	更年期女性の健康と看護①			
	7	地域における健康教育		石川美帆	
	8	更年期女性の健康と看護②		井出見也子	
	9	老年期女性の健康と看護			
	10	リプロダクティブヘルスケアとウイメンズヘルス遺伝相談 生殖医療 出生前診断	ワーク		
	11	女性の一生を支える看護（事例学習）			
	12	女性の一生を支える看護（事例展開）	演習準備		
	13	演習（シミュレーション）①	助産学科 と協働		
	14	演習（シミュレーション）②			
15	終了試験				
履修条件	女性の日常生活における月経周期の不調やトラブルのほか、女性が一生に経験する月経回数増加により、女性ホルモンが原因と考えられている婦人科疾患のリスクが高まり、それらに悩み受診する女性は後を絶ちません。また、ライフスタイルの変化や晩産化により、育児と更年期を同時に迎え、さらに介護も重なる女性も増加しています。ホルモンのはたらきやライフサイクルにより変化していく対象者の心身の健康状態に気づき、対象者に合わせて考えた看護を実践できるような力を身につけていきましょう。形態機能学Ⅳの(性を表現する)で学んだ内容や、母性看護学概論で学んだことも復習して臨んでください。				
評価方法	出席、授業への参加状況、課題レポート、演習、終了試験を総合し評価します				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 医学書院				
参考書					
備考					

## 看護学科

## 講義要綱

科目	母性看護の方法Ⅱ	単位数	1	開講時期	2年後期
授業形態	講義	時間数	30	必修区分	必修
担当者	医師 岩崎 真也 (6) 助産師 伏見 有希 (2) 看護師 松本 めぐみ (22)				
授業目的	地域で暮らす女性の産み育てを支える看護を理解する。また対象者の状態を系統的にアセスメントし、看護を実践できるための力を養う。				
到達目標	1 妊娠期の生理と看護について理解する。 2 分娩期の生理と看護について理解する。 3 産褥期の生理と看護について理解する。 4 新生児の生理と看護について理解する。 5 妊産褥婦と新生児に必要な看護技術				
技術項目	4：食事指導 28：新生児の沐浴・清拭 69：安楽な体位の調整 70：安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア				
授業概要	母性看護の方法Ⅰで学んだ成熟期にある女性のマタニティサイクル期に着目します。医師の講義で妊娠・分娩・産褥各時期における、女性と胎児の生理的变化と経過について基礎的な知識を学習し、その知識を踏まえて各時期に応じた視点とアセスメント、健康を支える看護について担当者から学びます。臨床の現場で実践する高度な技術も演習します。				
授業方法	講義、グループワーク				
授業展開	回数	内容	準備等	担当	
	1	妊娠の生理と経過、身体の変化 妊婦健康診 胎児の性分化と発育		岩崎真也	
	2	分娩の生理と経過			
	3	産褥の生理と経過 身体の変化 産後の健康診査			
	4	妊娠期における看護①		松本めぐみ	
	5	妊娠期における看護②		伏見有希	
	6	妊娠期における看護③		松本めぐみ	
	7	分娩期における看護①			
	8	分娩期における看護②	グループワーク		
	9	産褥期における看護①			
	10	産褥期における看護②			
	11	産褥期における看護③			
	12	妊産褥婦に必要な看護技術（演習）	事前・事後課題あり		
	13	新生児の生理と子宮外適応現象①			
	14	新生児の生理と子宮外適応現象②	事前・事後課題あり		
15	終了試験				
履修条件	核家族、シングルマザーの増加、夫婦であっても父親による育児参加が不十分な状況の中、周囲に援助を求めることができず、さらに医療者、地域からの支援が届かなかった女性は、孤立と疲弊から心身の健康が損なわれていきます。児の健やかな成長のために、家族各々がそれぞれの役割を順調に獲得していくこと、産後も女性がライフコースを自分の意思で選び取りながら「子育て」にも専念できるよう、妊娠・分娩・産後と継続した支援が必要であることを学んでいきましょう。 母性看護学概論、母性看護の方法Ⅰの知識を復習して臨んでください。				
評価方法	出席、授業への参加状況、課題レポート、終了試験を総合し評価します				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 医学書院				
参考書					
備考					

## 看護学科

## 講義要綱

科目	母性看護の方法Ⅲ	単位数	1	開講時期	2年後期
授業形態	講義・グループワーク	時間数	30	必修区分	必修
担当者	医師 岩崎 真也 (6) 助産師 伏見 有希 (4) 看護師 亀山 美穂 (20)				
授業目的	産み育てに障害のある人々の特徴や、生活に及ぼす影響を理解し、必要な看護を実践できるための力を養う。				
到達目標	1 妊娠期の異常と看護について理解する。 2 分娩期の異常と看護について理解する。 3 産褥期の異常と看護について理解する。 4 新生児の異常と看護について理解する。 5 妊産褥婦と新生児に必要な看護技術				
技術項目	28. 新生児の沐浴・清拭				
授業概要	母性看護の方法Ⅱで学んだ健康な産み育てから逸脱した女性と胎児（新生児）に着目します。医師の講義は妊娠・分娩・産褥各時期におこりやすい異常と治療について基礎的な知識を学習し、その知識を踏まえて各時期に応じた視点とアセスメント、看護についてを担当者から学びます。				
授業展開	回数	内容	準備等	担当	
	1	妊娠の異常ハイリスク、感染症、多胎		岩崎真也	
	2	分娩の異常 分娩の三要素、胎児機能不全、帝王切開			
	3	産褥の異常 子宮復古不全、精神障害、乳房			
	4	妊娠期の異常と看護		亀山 美穂	
	5	ハイリスク妊婦の看護		伏見有希	
	6	分娩期の異常と看護		亀山 美穂	
	7	帝王切開術の看護			
	8	産褥期の異常と看護			
	9	乳房トラブルの看護		伏見有希	
	10	産後の精神障害の看護			
	11	死産により児を亡くした産婦と家族の看護			
	12	不妊治療と看護		亀山 美穂	
	13	新生児の異常と看護 (低出生体重児、高ビリルビン血症)			
	14	新生児の清拭、沐浴の実際(演習)			
15	終了試験				
履修条件	母性看護の方法Ⅱで学んだ正常な経過の妊娠・分娩・産後の知識と看護の学習を踏まえ、異常時の看護について学んでいきましょう。 必ず母性看護の方法Ⅱの知識を復習して臨んでください。				
評価方法	出席、授業への参加状況、課題レポート、終了試験を総合し評価します。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 医学書院				
参考書					
備考					

## 看護学科

## 講義要綱

科目	精神看護の方法 I	単位数	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義	時間数	15	必修区分	必修
担当者	医師 中武 将幸(6) 医師 佐藤 光彦 (8) 看護教師 森 康太(1)				
授業目的	精神障害をもつ人についての理解を深め、患者看護の基本を学ぶ。				
到達目標	入院中心医療から、地域精神医療への転換が図られている。現在、精神障害をもつ人が、社会に参加しながら生き生きと生活するためには、看護師がどのように寄与していけば良いかを一緒に考えていきたい。そのために精神科の基本的知識を理解し、看護に活かせるように身につけることを目標とする。				
技術項目	71. 精神的安寧を保つためのケア				
授業概要	精神看護学に興味をもって真剣に授業に臨んで下さい。				
授業展開	内容		準備等		担当者
	1	精神医学総論			中武 将幸
	2	神経症性障害			中武 将幸
	3	認知症			中武 将幸
	4	統合失調症			佐藤 光彦
	5	気分障害			佐藤 光彦
	6	精神作用物質使用による精神および行動の障害			佐藤 光彦
	7	精神の発達			佐藤 光彦
	8	終了試験			森 康太
履修条件	教科書をよく読んで臨むこと				
評価方法	終了試験 100点評価				
テキスト	エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図 改訂版 中央法規出版株式会社系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 医学書院				
参考書	補助教材や関連資料も使用するが、各講義において配信する。				
備考					

## 看護学科

## 講義要綱

科目	精神看護の方法Ⅱ	単位数	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 森 康太				
授業目的	地域における精神保健の実践や支援の方法を学び、看護者としての関わり方や心のケアについて理解を深める				
到達目標	1 病院中心の精神科医療から地域におけるケアへと向かう日本の地域精神保健の動きを実践事例を通して知る。 2 精神障害者が安定した地域生活を送ることができるよう、援助者が心得ておくべき原則を学ぶ。 3 地域生活におけるこころの危機を支える社会制度とその基盤となる考え方を学ぶ。 4 学校・職場など、社会生活の場における精神保健と精神看護を学ぶ。				
技術項目	71. 精神的安寧を保つためのケア				
授業概要	こころの危機を回避するための様々な場所で行われているメンタルヘルスの支援の実際を学びます。また、感情労働である看護師のメンタルヘルスの支援の実際を学びます。				
授業展開	内容		準備等	担当者	
	1	「器」としての地域`精神保健の視点`	事例検討	森 康太	
	2	学校のメンタルヘルス 活動の実際			
	3	職場におけるメンタルヘルスと精神看護			
	4	看護の実態と予防 心のケアとは何か			
	5	精神障害と法制度			
	6	精神科看護と法律・制度 法律・制度の実際と課題			
	7	回復を支援する			
	8	回復の意味とリカバリーのビジョン	事例検討		
	9	様々な回復のためのプログラム	SST体験		
	10	地域で生きるを支える-知らないことへの不安を越えて-	映像視聴		
	11	発達障害と家族支援	映像視聴		
	12	地域で支える看護 - 精神科デイケアと訪問看護			
	13	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス			
	14	精神科におけるグリーフケア	事例検討		
15	終了試験				
履修条件	精神保健に関する学習やグループワークに積極的に参加すること。				
評価方法	出席状況と授業態度及び終了試験（筆記試験）の結果を総合して評価します。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開		医学書院 医学書院		
参考書	はじめての精神科看護（メディカ出版）精神保健福祉（医学書院）				
備考	講義資料は事前にデータ配信します。				

## 看護学科

## 講義要綱

科目	精神看護の方法Ⅲ	単位数	1	開講時期	2年後期
授業形態	講義・演習	時間数	15	必修区分	必修
担当者	看護師 森 康太				
授業目的	精神科病院における看護実践を学び、看護技術や症状管理方法を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 精神科における入院治療の意味を理解し、看護の役割について考える。</li> <li>2 心の痛みがどのように身体で表現されるかを知り、精神科に多い身体合併症とその看護、精神科で行われるケアの実際について理解する。</li> <li>3 精神障害者が安定した地域生活を送ることができるためにどのような看護が行われているかを理解する。</li> </ol>				
技術項目	71. 精神的安寧を保つためのケア				
授業概要	精神科病院における治療環境や看護の役割を理解し、精神疾患に特有の症状や状態に対応する看護技術を習得することを目的とします。また、精神科で重要となる身体合併症のケア、安全管理、災害時のメンタルヘルス支援についても学びます。				
授業展開	内容		準備等		担当者
	1	精神科病棟の機能と治療環境の特徴、看護師の役割			森 康太
	2	統合失調症患者の看護	事例検討		
	3	うつ病患者の看護	事例検討		
	4	双極性障害患者の看護	事例検討		
	5	身体をケアする 精神科の治療や合併症に伴う身体ケア			
	6	精神科医療の現状と課題を考える	ドキュメンタリー 映像視聴		
	7	災害とこころのケア 災害時のメンタルヘルスとDPATの活動	ドキュメンタリー 映像視聴		
8	終了試験				
履修条件	講義では精神疾患のある患者の事例や社会的課題について扱うため、精神疾患の基本的な知識と適切な倫理観をもって臨んでください。				
評価方法	出席状況と授業態度及び終了試験（筆記試験）の結果を総合して評価します。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎		医学書院		
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開		医学書院		
参考書	こころの健康がみえる（メディックメディア出版）		精神科の看護ケア（ナツメ社）		
備考	講義資料は事前にデータ配信します。				

## 看護学科

## 講義要綱

科目	医療安全	単位数	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義・グループワーク	時間数	15	必修区分	必修
担当者	看護師 玉木恭子(7) 牧田 真由子 (6) 感染管理認定看護師 齋藤 敦子(2)				
授業目的	医療・看護の安全を保つこと、事故防止の視点から対象の安全について学ぶ				
到達目標	1 医療事故に対する理解を深め、事故防止の視点から医療安全の知識・技術を学ぶ。 2 感染対策に対する理解を深め、根拠法や現状の視点から医療安全の知識・技術を学ぶ。 3 基礎看護学実習Ⅱの体験を安全の視点から振り返り、授業の学びと関連づけて表現する。				
技術項目	60:感染性廃棄物の取り扱い(講義) 62:針刺し事故・事故後の対応(講義) 63:インシデント・アクシデントの速やかな報告(講義)				
授業概要	医療安全管理室の看護師、感染管理認定看護師から、看護の対象である患者、そして、患者の安全を保つ為に必要な医療の安全について学びます。				
授業展開	回数	内容	準備等	担当者	
	1	医療安全と看護の責務 医療安全施策と医療の質の評価		牧田真由子	
	2	事故発生のメカニズムと防止対策 ヒューマンエラー・ Medikation エラー			
	3	医療機関における安全対策 医療事故後の対応			
	4	感染の危険を伴う病原体への暴露と防止 院内感染の実際、感染症法など		感染管理認定看護師 齋藤敦子	
	5	医療安全と実際の事故、医療安全にかかわる重要語句	新聞やニュース等から 気になる医療事故関連 の記事をピックアップ する	玉木恭子	
	6	事例から医療安全を考える 看護学生のインシデントレポート ヒヤリハット事例での要因分析(KYT)	グループワーク		
	7	KYTの実際 イラストKYTの実際と発表			
8	終了試験				
履修条件	新聞やその他の情報ツールから医療事故やインシデントに関する記事を読み、ピックアップしておいてください。 看護の方法で学んだ「感染防止の技術」「安全確保の技術」「与薬の技術」「検査の技術」について安全を視点を振り返りをしてください。				
評価方法	終了試験配点：80点 グループワーク配点：10点 レポート課題：5点				
テキスト	系統看護学講座 医療安全 医学書院				
参考書	ナースのための危険予知トレーニングテキスト メディカ出版				
備考					